



広げよ 可能性の地図、
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実
山口県立小野田高等学校
校長通信（発行不定期）

平成31年1月8日 **第9号**

2019年、平成最後の年があげました。今年もよろしくお祈りします。

さて、「1年の計は元旦にあり」と言われますが、君たちはこのお正月、どのような願掛けを行いましたか。

未来予測が困難な不確実な時代のなかで、今の君たちには、この世をたくましく生き抜いていく「生きる力」が求められています。その力とは確かな学力、健やかな健康・体力、そして豊かな人間性です。

小野田高校は君たちが潜在的にもっているこの力を、引き出し、育み、さらに高めていきたいと考えています。

この学舎で、先生や友人たちと共に学び会い、今年さらなる成長をとげましょう。

今年も良い年でありますように！



異文化理解において大切なこと

高校・大学の頃、私は国際人に憧れていました。そして、私自身も国際人になりたいと思っていました。その国際人とは、英語ができる人のことでした。「国際的な標準言語は英語。だから、英語力が身に付けば国際人になれる」と信じていたのです。

しかし、もう20年も前のことですが、国際交流パーティーに参加して、アメリカ人留学生たちと食事をしたことがありました。その時、私たちと同じテーブルに座っていた一人のアメリカ人学生が質問をしてきました。「何故、日本人は鯨を食べるのか。鯨食なんて野蛮じゃないか。」と。ちょうどその頃、「グリーンピース」(国際的な環境保護団体)等によって、反捕鯨運動が世界的に高まっていた時だったので、このような会話になったのだと思います。

その時、日本の食文化を専門的に研究されていた大学の先生が、彼の質問に対し次のように答えました。「アメリカ人は牛肉や豚肉を食べるが、近代以前の日本人は牛や豚を食べないかわりに鯨の肉を食べてきた。それは、日本人が今日にいたるまで伝統的に大切にしてきた食文化だ。民族によって食に対する考え方は違う。食文化において、文明も野蛮もないんだよ」と。その説明を聴いて、アメリカ人学生も納得したようでした。

世の中には、自国の文化を絶対とみなし、他国の文化を知ろうとしない人がいます。また、理解しようとしなくていい人もいます。このような他国の文化に対し自国の文化を優越視する考え方をエスノセントリズム(自国文化中心主義)といいます。そこから派生してくるのは、異文化に対する蔑視・偏見や差別です。そして、それがしばしば、戦争や民族紛争等につながっているのです。





「真の国際人」になるためには、何が必要でしょうか。もちろん、外国人とのコミュニケーションの手段として、英語力は大切です。しかし、それだけではだめなのです。もっと大切なことは、自国の文化とともに異文化も認めそれを受容できること。違いも含み、価値を認め、尊重できること。それこそが、「真の国際人」への第一歩ではないかと思えます。

現代はグローバル化が進展するなか、「ひと・もの・かね・情報」等がダイナミックに動き、「ボーダーレスの時代」が到来しようという時代です。しかし、他方、民族や文化・宗教の違いに起因する紛争や差別もいっこうになくならないのが現代という時代。そうした時代に生きる君たちには、異文化を正しく理解するとともに、それに対する寛容の精神も身に付け、「真の国際人」になってほしいと願っています。

2年生へ 3年生0学期の始まりです

「3年生0学期」という言葉があります。

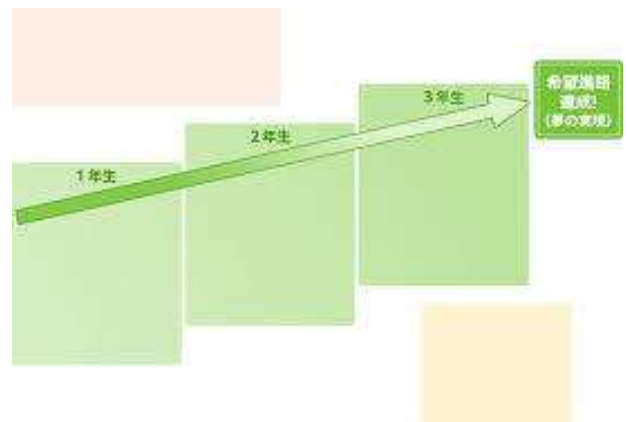
一体なんのことでしょうか？

もちろん、現実にはこのような名称の学期などありません。これは、あくまでも2年生生徒の意識のなかにあるべき架空の学期のこと。

実はこれは、2年生3学期を言い換えた言葉です。「2年生にとって3学期は、もはや2年生ではない。もう3年生になったという意識をもって、希望進路について真摯に考え、受験勉強に励んでほしい」という意味です。

3年生の先輩たちから時に話を聴くことはありませんか。受験がいかに厳しいか。受験勉強がどれほど苦しいか。

2年生は「自分はもう3年生なんだ」と意識変革をしてください。そして、希望進路に向けた受験勉強に励んでもらいたいと思います。



3年生受験生へ 一般入試に向けて



センター試験に向けたラストスパートのこの時期。毎日、受験生は猛勉強に励んでいると思います。しかし、センター試験で、受験は終わりではありません。それどころか、まさしくそこからがまた新たな戦いの始まりなのです。

センター試験後の自己採点の結果を基に、君たちは志望校を決め出願します。確かに、大学のなかには、センター試験の結果だけで合否を決める大学もあります。しかし、多くの国公立大学は、各大学が独自に行う個別試験を実施しています。たとえ、センター試験の結果が不十分であっても、個別試験で挽回することは十分に可能です。

ですから、志望校合格に向けた勉強は、これからも継続してほしい。猛勉強に励んでほしい、と願います。受験生にとって、受験勉強の終了は一般入試の終了日なのです。

苦しみの彼方に歓喜あり。小野田高校受験生のさらなる奮闘努力を期待しています。